

2020年3月期第1四半期決算電話会議議事録

参考資料:2020年3月期第1四半期決算説明資料

(補足) PKG:パッケージ基板

HDI :マザーボード(High Density Interconnect)

【機能材料セグメント】

Q. 銅箔およびMicroThin™の数量について、Q1、Q2の需要動向の背景を教えてください。

A. 一般銅箔はQ1、Q2にかけてフレキ向け、通信インフラ向けで回復基調。一般銅箔全体で上期は計画を上回る見込み。MicroThin™は、PKG向けがQ1、Q2にかけてメモリ向けが伸びており、Q2は期初計画水準まで受注回復。HDI向けは、Q1立ち上がり、Q2でピークと想定通りの動きだが、期初計画より数量は落ちている。

Q. MicroThin™のうち、PKG 向けと HDI 向けの比率および HDI 向けについて、新規顧客や機種
の広がりがあれば教えてください。

A. HDI 向け比率:Q1 は 1/4 程度、Q2 は 3 割弱。HDI 向けの新規顧客について新しい情報はない。

Q. 機能材料セグメントの Q1、Q2 の在庫要因を除いた利益推移について、MicroThin™の数量が増えるのに横ばいの理由についてご説明下さい。

A. 在庫要因を除くと Q2 の方が数億円増えている。銅箔は増益だが、研究開発費が増加する。

Q. MicroThin™は Q1 から Q2 にかけて増販計画であるが、確度は高いのか。また、期初計画から下方修正したが、その理由を教えてください。

A. 確度は高い。下方修正は 18Q4 の低迷が大きく、19Q1 から回復したため上期では期初計画は未達。

Q. 機能材料セグメントが下方修正したが、各事業の損益影響を解説ください。

A. 機能粉の主力製品である銅粉が在庫調整から回復していないことが一番大きな要因。

Q. MicroThin™の上期下方修正の要因について、需要減以外の要因があったら教えてください。

A. HDI 向けは採用層数減少や取り個数の増加(顧客の生産効率化)も下方修正の要因。

Q. ITO ターゲット材は Q2 では回復を見込んでいるが、どのような需要を見込んでいるのか。また、インジウム価格が下落しているが、採算の状況を教えてください。

A. 中国パネルメーカーでは高稼働であり ITO の需要はある。ただスマホ向け受注が低迷。また一部顧客での価格競争により数量が若干落ちている。採算について、インジウムの価格下落で顧客からの値下げ要請が強くなり、マージンは悪化する方向。

【金属セグメント】

Q. カセロネス銅鉱山について、Q1、Q2それぞれの損益を教えてください。

A. Q1: ▲5 億円、Q2: ▲15 億円、上期: ▲20 億円を見込んでいる。

Q. カセロネス銅鉱山の Q1 から Q2 の持分法損益の悪化は、銅市況の下落ということでしょうか。

A. Q1 から Q2 にかけて操業面で大きな問題ないため、銅価格の下落と考えてよい。

Q. 神岡水力発電所における落雷の影響について被害状況、収益インパクトなど教えてください。

A. 8/8 プレスリリースの通り、復旧の見込は調査中。被災した発電所の発電量は全体の 3~4 割。水力発電の収支は悪化するが数字については精査中。また工場の操業に影響はない。

Q. 金属事業セグメントにおける原料構成の改善(参考資料 P13)について、内容および一過性要因かどうか教えてください。

A. 精鉱ではなくリサイクル原料が増加したため。入荷のズレ等もあるので一過性かどうか言えないが、通期で大きな改善は見込んでいない。

【関連セグメント】

Q. 関連事業について、19Q1 vs 18Q1 での減益要因、および上期見込の下方修正要因を教えてください。

A. 19Q1 vs 18Q1 は、エンジニアリング事業の工事案件減少が大きな要因。上期見込は、伸銅品やダイカストの市場低迷等、諸々の原因の集積でマイナスとなっている。

Q. 関連事業について、通期でも減益が継続するのでしょうか。

A. 占める割合の大きいエンジニアリング事業は、下期で増益になる。

以 上